

2016



J・A・C

(第 34 号)

千葉支部だより



平成 28 年 3 月発行

日本山岳会千葉支部

発行者 三木雄三

編集者 吉野 聰

三木雄三方

E-Mail cib@jac.or.jp

第 9 回 4 支部合同懇談会の報告

山田紀夫

第 9 回 4 支部合同懇談会が、2 月 6～7 日、茨城県大洗町の「大洗ホテル」において開催されました。

今回の担当支部は、茨城支部、全体の参加者は 52 名 (千葉支部 16 名) でした。開会に当たり、浅野茨城支部長より「今後 4 支部でのブロックを発展させていこう」という方向性と「国民の祝日となった山の日を充実させていこう」という力強い挨拶がありました。続いて、各支部よりの活動報告があり、当支部からは、高橋事務局長が、公益事業としての「親子登山」、分水嶺調査



に続く「郡界尾根調査」、「支部だよりの充実」等について報告しました。その後の講演会では、講師の山田明さん (茨城支部広報委員、元国土地理院職員) より「劔岳の三

角点」と題し平成 16 年の劔岳三等三角点の設置と劔岳標高 2999 メートルの裏話など、当時の記録映画を上映しながら興味深く語っていただきました。

懇親会では、各支部自慢の地酒を持ち寄りアン



高鈴山山頂で

コウ鍋に舌鼓を打ちながら、カラオケなども聞こえてきて大変盛り上がり親交を深めることが出来ました。二次会では塩澤さんのハーモニカ演奏を楽しむことが出来ました。

翌日、山行コースは、花の百名山でもあり一等三角点のある「高鈴山」(629 メートル) に登りました。天気は晴天で気持ちいいのですが、まだ雪がある山道を滑りながら登り山頂からの素晴らしい眺めを満喫してきました。観光コースは、徒歩にて大洗磯前神社から「大洗町幕末と明治の博物館」などを散策しました。この二日間は、各支部の皆様との有意義な情報交換が出来、今後の山岳会発展にますます寄与できるものと思っています。

参加者：小澤けい子、小疇尚、川島辰雄、小板橋志朗、坂上光恵、鈴木美代、塩澤厚、諏訪吉春、高橋琢子、三木雄三、柳下忠義、谷内剛、山崎完治、山田紀夫、湯下正子、吉野聰 (敬称略)

平成 27 年度年次晩餐会

盛大に 110 周年祝う

12 月 5 日 (土)

三木雄三

千葉からは 23 人出席



日本山岳会の創立 110 周年記念式典と祝賀晩餐会が 12 月 5 日、皇太子さまをお迎えして東京・京王プラザホテルで盛大に開かれた。千葉支部からは長老の塩澤厚さんや新入会員の三田博さんら 23 人が出席。また、支部だより「登山 ABC」を

連載している高橋正彦さんが山岳会在籍 50 年になり、永年会員となった。

記念式典で日本山岳会の小林政志会長が「110 周年を迎えることができたのは先人たちのおかげ。そして山岳会の財産は多士済々の会員の活動だ。今日を節目に新たな気持ちで頑張っていこう」とあいさつ。来賓の全国「山の日」協議会の谷垣禎一会長も「来年の 8 月 11 日に国民の祝日として『山の日』がスタートする。文化やスポーツとしての山、あるいは生物多様性、

芸術など、山を幅広く考えていきたい。親子登山も奨めてほしい」と述べた。

式典の後に祝賀晩餐会が始まり、新永年会員の顕彰、新入会員の紹介、鏡開き、乾杯と一連の行事が進み、会場の各テーブルでは会員相互の懇談がなごやかに続いた。

準会員制度を導入へ

支部長会議で検討案が示される

記念式典に先立ち、午前 10 時から支部長会議があった。会務報告に続き、会員制度に関する検討案として「来年 6 月から準会員制度を発足」が本部側から提案された。「会員減少による財政状況の悪化を防ぎ、入会のハードルを低くして、すそ野を広げたい」とのことから①準会員は 3 年間以内に正会員に移行②入会金は 5 千円③会費は

6 千円④機関紙「山」は郵送するなどの制度案が説明された。

意見交換で千葉支部は「支部独自の会友制度がある。会友を機械的に準会員に移せば大半の会友は支部を去ることが危惧される。現状の会友制度は残すべきだ」(三木)と発言。他支部からも「正会員から準会員に移る逆の流れが心配」との意見が相次いだ。

「奥多摩むかし道」～晴香園の子供達と～ 11月29日(日)

日色健人

天候に恵まれ、7時44分新宿発の「ホリデー快速おくたま3号」はハイキング姿の老若男女で満席状態。終点の奥多摩駅には時刻表通り9時16分に到着し、駅前にて支部会員・会友の皆さん、そして晴香園の子供達・職員さんと合流する。私は支部行事に参加するのが初めてだったので、無事合流できるか不安だったが、名札を用意していただいていたこともあり安心することができた。

「奥多摩むかし道」は旧青梅街道と呼ばれていた道で、奥多摩駅と奥多摩湖(小河内くおごうちダム)を結ぶ全長



9.4kmのハイキングルートだ。全体としてアップダウンも少なく、道標やトイレも良く整備されている。ダム建設のための道路(現在は国道411号となっている)が出来る前は山間の集落を結ぶ生活道路でもあったようで、道沿いには往時をしのばせる「馬の水飲み場」や道中の安全を祈ったであろう道祖神などが残されている。

駅前の案内所で地図を入手し、トイレを済ませ

参加者

晴香園：引率2名、生徒6名

千葉支部：小澤けい子、小板橋志朗、塩塚厚、竹内紀子、日色健人、柳下忠義、湯下正子 (敬称略)

て9時45分ごろ出発。子供達はいろいろおしゃべりしながらずんずん進んでゆく。今年は朝晩の冷え込みが弱かったせいか、色づく前に葉を落としてしまっ

た木も多いようだが、途中あちこち

に見事な色づきを見せるカエデやモミジの大木にみな笑顔。また、ユズや柿なども色づき良くたわわに実っており、晩秋を迎えた山村の生活を感じることができた。

子供達に引きずられるように、大休止を取ることもなく約3時間歩きとおして午後12時40分奥多摩湖着。さすがにお腹を空かせた様子の子供達だったが、お弁当を平らげると思い思いにダム湖を眺めたり、併設の資料館を見学して過ごしていたようだった。14時10分発のバスにて一路奥多摩駅に戻り、一行は解散、それぞれ帰路に就いた。

今回初めて参加したが、子供達にこうした自然に触れる機会を提供するこの事業は、山岳会支部の活動として楽しくまた大変有意義なものと感じた。機会を見てまた是非参加したいと思う。



忘年山行 奇岩・怪岩の石老山に登る

12月12日（土）

神山良雄

相模湖駅前のロータリーのステンドグラスや、大時計を見つつ、ホリデー快速で来る仲間を待つ。満員のバス停はプレジャーフォレストで半分が、次のバス停で我々が下車すると空席が目立つようになった。

初顔合わせとなるメンバーもあるので自己紹介、私以外は電車内ですでに済んでいるかも？

身支度とストレッチをして9時40分出発。こんな山奥に何故にと思わせる『牡蠣小屋』、たわわに実った柚子の有る長閑な民家を眺めつつ相模湖病院に到着。

ここから山道となるが、前日の雨で水路と化した参道を奇岩・怪岩の説明プレートを見ながら進むと、30分で顕鏡寺に到着。

礫岩の上に芽吹いた杉の幼木の根が、硬い岩のため地下に潜れず岩の上を水と養分を求めて這い延び、そのさまが大蛇に見えることから蛇木杉と言われる。大イチョウはギンナン多数落ちており、どちらも樹齢400年以上の大木です。

休息の後は、展望の良い桜道コースから山頂に向かうが私が期待したほどの展望はなかった。最後の急登を喘ぎながら登り、12時5分富士山が迎えてくれたいただきは、かなりの登山者で食事の場所確保に悩むほどである。落ち葉のこの時期と、

参加者： 山口文嗣（L）、小澤けい子、神山良雄、坂上光恵、塩塚生二、高橋正彦、船木元、三田博、三田芳江、湯下正子（敬称略）



新緑の頃がこの山の良い季節と思う。皇太子様も2週間前この頂を踏んだとか！

昼食をして、記念スナップ、集合写真を撮り、12時45分山頂を後にする。

ここからは急な下りで逆コースを採用しなかったリーダーに感謝。1時間ほどで大明神展望台到着、パノラマを楽しみ、バス時刻を気にしつつ再び急な下りで14時35分林道到着。バス停14時55分。

最後の車道歩きは、記録を見返すと20分だが長く感じたのは歳のせいかな！

富山で鍋楽しむ 麗山会と交流ハイキング

12月23日(水)

三木雄三

山岳会同好会の「麗山会」(北原孝浩代表)と千葉支部との交流ハイキングが天皇誕生日の12月23日、南総里見八犬伝の舞台で知られる房総の名山・富山で開かれ、約20人が参加した。時折小雨がぱらついたりしたが、登山道に咲くスイセン、眼下に広がる東京湾や館山湾、さらに「日本で最も遅い」と言われる紅葉を楽しみながら歩いた。頂上の広場では千葉支部のメンバーが担ぎ上げ、調理した鍋料理に舌鼓。北原代表は「千葉の山がこんなに良いところとは知らなかった。ぜひまた歩きたい」と話していた。

麗山会はもともと2003年に日本山岳会へ入会した会員でスタート。千葉支部で事務局長を務めた故豊倉さと子さんも所属していた同好会。同メンバーでもある津田麗子さんから「暖かな房総の山で鍋山行を楽しみたい」と打診され、「他の



田和人副会長らも駆けつけてくれた。

東京からの特急や各駅停車で内房線岩井駅に集合。特徴ある双耳峰が美しい富山を目差す。この間、鶏肉や豚肉、野菜を用意した千葉支部員は結城純一さん運転の車で山頂直下まで乗り付け鍋の準備。「こちら登山口に到着、準備はいかが...」「お湯が沸いてきました。待ってまーす」。山頂で熱々の鍋汁が食べられるようにとハイキング班と連絡を取り合いながら調理を始めた。

山道ではスイセンが馥郁とした香りを放ち、師走だというのに紅葉も...。五合目を過ぎると館山湾が見え、天気が良ければ富士や伊豆大島も望めるところ。南峰を回り込んでちょうど昼に山頂に到着。「たくさんありますから、どんどん食べてくださいね」と千葉支部の女性陣。広い山頂には展望塔やベンチがあり、思い思いの場所で交流を深めた。



同好会などと交流することは千葉支部のためにもなる」と決めた。案内を掲載した支部だよりを発送した段階では締め切り日を過ぎてしまったが、それでも常磐線地域から黒田正雄さんや新入会員の三田博さん、さらに本部から千葉支部会友の山

手賀沼散歩

白樺派の足跡を歩く

1月16日(土)

三木雄三

「どうです、良い眺めでしょ…」。案内してくれた湯下さんが沼を指さした。晴れていれば富士山も見えるとか。キラキラと冬の陽ざしを受けて波光がまぶしい。くるり振り向くと端正な双耳峰の筑波山があった。



我孫子駅前の行政施設「けやきプラザ」は、我孫子全体が見渡せる新名所だそうだ。きょうの文学散歩はここから出発。講道館の創設者であり教育者でもあった嘉納治五郎の別荘跡へ向かう。手賀沼を見下ろす高台は天神山と呼ばれ、建物などは残っていないが大きなスダジイの木が一本あり、「これが美味いんですよ」と小板橋さんがドングリを口にした。つられて食べてみた。なるほど、甘みがあって美味かった。いったん丘を下り、登り返せば民俗学者柳田国男と交流のあった新聞記者の杉村楚人冠公園だ。ここからも沼が見えた。

もともと沼べりの道だった「ハケの道」を歩けば志賀直哉が暮らした邸跡だ。当時、手賀沼に沿った道沿いの志賀の家からは一日中手賀沼や富士山が見えたという。「深い秋の静かな晩だった。

沼の上を雁がなくて通る。細君は食台の上の洋灯を引き寄せてその下で針仕事をしている…」。志賀の作品『好人物の夫婦』は手賀沼の生活を描く。

「北の鎌倉」とも呼ばれ、大正時代に多くの白樺派の作家たちが集まった我孫子だが、私が駆け出しの新聞記者のころ、手賀沼は「日本一汚れた沼」の汚名を着せられていた。急な開発に追いつかない下水道整備。家庭雑排水は沼に垂れ流された。しかし時が流れ環境意識の高まりとともに沼も大きく変わった。

沼を見ながらの昼食。野鳥が羽を休め、楽しそうに散策する親子連れの姿がたくさん見受けられた。沼のほとりには嘉納治五郎と師弟関係にあった村川堅固の別荘もあり立ち寄った。また県北屈指の遺跡「根戸城址」の所有者は湯下さんのお姉さんで、コーヒーをいただいた。

帰りに「あびこ」を逆に読んだような「コビアン」というユニークな店で軽く一杯。つい長居をしてしまう。



参加者：小澤けい子、川島辰雄、小板橋志朗、坂上光恵、高橋琢子、三木雄三、山崎完治、湯下正子
(敬称略)

新春の鎌倉アルプスを楽しむ

1月23日(土)

大平山から衣張山へ

香高真奈美



体が冷えないうちに出発。まずは瑞泉寺入口まで降りてしばらく住宅街を歩く。杉本寺の下で街道と離れ、最奥の民家を過ぎると、うっそうとしたスギ林に入る。「ここからが今日二つ目の山、目的の衣張山に登りますよー！」と隊長に励まされて頂上を目指す。30分ほど急な斜面をジグザグに登り標高120メートルの頂上。富士山こそ見えないものの、相模湾や鎌倉市街、江の島などが見渡せた。

「夕方から雪」という予報のため防寒服にしっかりと身を包んだ一行は、鎌倉駅から元気に歩き出した。

17名を2班に分け、まずは鶴岡八幡宮に初詣してそのまま建長寺へ向かう。法堂の天井画『雲竜図』を鑑賞し更に奥へ。ご祈祷の声に誘われるように標高145メートルの勝上嶽(しょうじょうけん)に登り眺望を楽しんだ。

そこから尾根道のアップダウンを繰り返し岩塊の大平山頂(159メートル)に出る。集合写真を撮り広場を進むと峠の茶屋のある天園だ。気温6℃とはいうもののすがすがしい気持ちでランチタイム。山口隊長や有志の方々が参加者に暖かいおでんとおぜんざいを振舞って下さった。感謝！

下山は「お猿島の大切岸(おおきりぎし)」という不思議な崖の下を通り、紅白の梅が咲き誇る法性寺の中を抜け山門へ。時間は計画通りの15時10分。ここで一旦お疲れ様のご挨拶。さらに20分ほどの歩き逗子駅、各々帰途についた。

ゲストとして参加してくれた女性5名の感想は「体力に自信がなかったけど親切に先導していただき完歩できて良かった！」とか「広島出身なので関東の山々、特に鎌倉アルプスにずっと憧れていたので大満足です。また参加したい」などでした。

参加者：山口文嗣(L)、小澤けい子、香高真奈美、櫻田直克、塩塚生二、鈴木美代、高橋琢子、廣村恵美子、
船木元、吉永英明、渡邊信一、渡邊すみ子、
(ゲスト) 宇野圭子、北原しづ子、國宋文、萩原恵、三浦久美 (敬称略)

郡界尾根踏査の報告

第6回 平成27年12月19日(土) コース：細尾横根→横根峠→志駒川源渡渉点

前回、ルートを外し無念の途中引き返しを余儀なくされたが、そのリベンジに燃えた8名のメンバーが今年2回目の郡界尾根踏査に参加した。

今日のコースの進入口となる細尾横根集落入口の「タルミ橋」バス停10時到着。

早速、尾根への取付きを目指すのが2万5千の地形図「金束(こづか)」で探してもなかなか判かりづらい。幸いなことに地元の人が親切に入口を教えてくれた。早咲きのスイセンが一杯に咲き誇る山道に沿ってイノシシの罾や電気柵が設置されている。

11時過ぎ前回誤った地点(263のピーク)に到着。地形図と2台のGPSを駆使してルートの特定を開始。しばらくして南方向に下るルートを発見。上から見ると判るのだが、登りながらこのルートを見つけるのはなかなか難しい。

これを南下、途中で188の三角点確認する。南房総ならではの遅い紅葉で目を和ませ、イノシシが荒らした山道をふみわけていく。やぶの中では朽ちた倒木が道を塞ぎ、身をかがませて前に進む。

12時半を過ぎたころ、下の方から車の音が聞こえてくる。目的の横根峠に近づいたのだ。

しかし、横根峠に降りるルートが途切れて急斜面となっている。岩尾さんが先頭でルートを選定し、20メートルのロープを何度も使い、湿ってす

べりやすい急斜面を1時間ほどかけて慎重に下降して全員無事に降り立つことが出来た。前回無理をしてここまで進んできて、日暮れ近くなっている。うす暗い中でこの急斜面を降りることは大変な危険を伴ったのではないかと。



横根峠に到着

14時、長狭街道を横断して津森山へのルートを確認しながら前進を開始。ここからは竹が密生して今まで以上にやぶが深い。たまたまあった市町境界杭を頼りに進んで、最後は道路壁面にコンクリートを吹き付けた上部に出てしまう。これを避けて再びロープを使い志駒川源流域の道路に降りた。時間も15時を過ぎて、ここで今回の踏査を終了した。

(吉野聡)

参加者：山口文嗣(L)、岩尾富士夫(SL)、小澤けい子、高橋琢子、三木雄三、三田博、三田芳江、吉野聡(敬称略)

第7回 平成28年1月9日(土)

コース：志駒川源流渡渉点→津森山→長狭街道横断→八丁山入口

風もなく快晴、絶好の登山日和。いよいよ津森山のルートに挑戦する。

我々は日東交通バスに乗り山中バス停で下車。10時20分登山開始。長狭街道から南に100メートルほど志駒川沿いを歩き渡渉、イノシシの電気柵が張り巡らされた田んぼ道を進み、津森山に取りついた。樹木をかき分け幹や枝につかまり少しずつ登っていくこと小1時間、ようやく尾根道にたどり着く。周囲の照葉樹林帯はうっそうとしていて展望はきかない。274のピーク(2万5千分の1地形図「金東」)を越え、登り始めて2時間後、津森山頂上(336メートル)到着。

頂上に立つと、嵯峨山、鋸山、富山を始めとする房総の山々、東と西のかなたには太平洋と東京湾の広大な展望。言い伝えによると、養老年間(西暦717~723)、上総の国から安房の国を分けるときに、この山頂に登って分界を見積もったことにより見積山と称し、略して「つもり山」となったとのこと。頂上に祀られた木花之開耶媛姫命、金毘羅大神、御嶽大神の石碑の前で集合写真を撮る。

石碑脇に“房州低名山 津森山”の立札があったので、「ぼうしゅうていめいざん」と読んだら「ひくめいざん

ですよ」と注意される。

この頂上で郡界尾根と房総半島分水嶺のルートが合流して、今後しばらく双方が重なったコース



津森山頂上で

を歩いていくこととなる。

40分くらい頂上で休息して下山開始。長狭街道をめざし北に向け進む。しかしこのルートは思いのほか急こう配、身体を確保する木も少なく危険な場所もある。岩尾さんが2か所で30メートルのロープを出して一人一人の安全を確保しながら下降する。13時50分全員下山。

14時15分、次の目的である八丁山(308メートル)の進入路の探索を開始。土からはみ出した木の根につかまり攀じ登っていく。尾根への道筋が探索できたところで、ロープを使い下山。15時、今回の踏査を終了した。

帰りの電車で、東京湾に沈む夕陽が三浦半島や伊豆半島を浮かび上がらせる美しい光景に思わず女性隊員も缶ビールを掲げ乾杯する。

今回初めて参加した山田紀夫さんは「道なき道を歩き、ロープを使って下降したりとても楽しかった。また是非参加したい」と話した。

このプロジェクトにまだ参加していない皆さん、一緒に道なき道を歩いてみませんか。

(吉野聰)

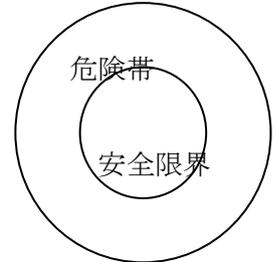
参加者：山口文嗣(L)、岩尾富士夫(SL)、小澤けい子、高橋琢子、高橋正彦、三田博、三田芳江、山田紀夫、吉野聰(敬称略)

登山のABC (連載最終回)

第7話 登山の安全限界について

高橋正彦

JACの創立は1905年であり、設立者のメンバーからすると文化人が多いが、1921年榎有恒氏によるアイガー東山綾からの初登頂によりヨーロッパ登山の技術が日本に持ち込まれたことや、登山洋書も愛好家に読まれ、JACはスポーツ登山を啓蒙してきました。現在は公益社団法人となり登山行動も自然保護や公益に資する活動と多様化してきましたが、本稿ではスポーツ登山に於ける「安全限界」について述べます。



スポーツ登山の精神はその行為に於いて「フェアプレー精神の発揮」につきまします。A・F・マンメリー（マロリーとは違う）は「より高きより困難な山登り」を目標とし、また、G・W・ヤング（英国AC会長1876～1958年）によれば1に登山者自身に対する責任、2に自然に対する責任（山を汚してはいけない）、3にスポーツ精神に対する責任、と述べています。

登山というスポーツでは、登山者が勝っても敗北する相手がなく、登山者が敗北しても誰の勝利に帰さない。登山の審判をするのは登山者自身です。ここで登山に於ける安全限界ですが、登山行為にはベストを尽くさなければなりません。そして「登り癖」をつけなければなりません。それが無理をして遭難という事態を招いてはベストではありません。登山という行為にあっては常に余裕がなければなりません。よく登山の失敗の原因をやたらと天候や道具のせいにするのはアンフェアです。このベストとアンフェアの線引きをするのも登山者自身です。それでは自分に登山の安全限界はどこですかと問われても答えようがありません。しかし、自身の安全限界を広げる手段はあります。

どんな著名な登山家でも、第一歩は近くの山へのハイキングであったり、親に連れられて山の魅力にとりつかれたとか動機は様々です。問題は次の一歩です。山のグレードでいえば例えば最初が高尾山、次は奥秩父、八ヶ岳、北アルプスそして海外の登山となり、季節では夏、秋、春、冬と段階を一つ、ひとつ経験を積みグレードをアップしていかなければなりません。安全限界の向上も全く登山と同様に最初の一歩から始めなければなりません。そこで「より高きより困難な山登り」はトップクライマーだけの言葉で無く、自分自身の目標をもち「より高きより困難な山登り」を目指すべきです。それが3km級の冬山であったり、ロッククライミングであったり、沢登りであったり、百名山であったり、自分がやりたい登山を目指せばよいのです。目指す登山が決まったら、参加するだけでは安全限界は広がりません。自分で計画し、自分で責任をもってリーダーになり実行し、全員無事下山した時の満足感は参加するだけよりは10倍楽しいと云われております。年齢は関係ありません。是非、挑戦してみてください。

以上、抽象的な言葉を並べてきましたが、具体的な登山での安全限界のケース・スタディーは千葉支部の仲間でもあり先輩でもある南井英弘さんが寄稿されたJAC年報「山岳2014年Vol.109」の“憧憬のヒマラヤ登山”を参考にされることをお勧めします。

今回が最終回となりました。2014年9月号から足掛け7話にわたり掲載させて頂き、会員の皆様に少しでも参考になったとすれば幸いです。ありがとうございました。

(参考文献：金坂一郎著：「冬山技術セミナー」山と溪谷社刊、昔のJAC刊：「山日記」から)

「大高取山自然観察会」に参加して

11月29日(日)

高橋琢子

埼玉支部主催、越生町教育委員会が後援する「大高取山探査行」という自然観察会に、津田、鈴木、山崎、高橋が参加した。

越生町はユズ生産の北限の地であり、同町を訪れるハイカーが多いことから来年には「ハイキングの町」宣言をするという。大高取山一帯は、地質的には秩父帯の特徴が顕著に現われており、古生代・中生代の石灰岩やチャートの露頭をいたる

所で見ることができた。また、植物の種類も多く、絶滅危惧種のアリド

ウシ(通称一両)が赤い実を付けているのを見ることができた。登山道沿いには冬イチゴの赤い実がキラキラ光り、時々つまんで口に入れると甘酸っぱさが広がった。

総勢50人の参加者は、6班に分かれてそれぞれのリーダーから植物や地質の説明を受けたが、その知識の豊かさには勉強会の程がうかがえた。

そんな中、私の心にフッとよぎったのは、このような自然観察会が千葉でもできないだろうか?ということ。山のない千葉県でも鹿野山の九十九谷で知られるケスタ地形など、素晴らしい景観が広がっている。案外知られていない千葉県の良さを多くの方に知らせられたら…と。

それには、まず私たちが勉強しなければ…と心を新たにして越生町を後にした。



越生町法音寺から出発

「権現森」観察会について

2月3日(水)

山崎完治

高尾の森づくりの会生態班が権現森で観察会を実施した。千葉支部から鈴木・山崎の2人が参加した。

六地藏のバス停から権現森を目指す。クヌギ林の中で炭焼き作業をしている人に出会う。道を進むと森の入口の鳥居が見えてくる。ここが権現森の入口である。スギやタブノキの巨木の森で、地元の人の話では、その昔は「呪いの森」と呼ばれたとのこと。

房総半島のタブノキ林は、海岸寄りに分布が、ここは海岸から離れた内陸部に位置するタブノキ林として知られている。石段の中ほどにはカゴノキの巨木がそびえている。標高177メートルの山頂には、ヤマトタケルノミコトを祭神とする武峯神社がまつられている。神社後方に一等三角点があり、ここか

ら上総丘陵が南方走り、房総半島を東西に分け、東側が一宮川から太平

洋へ、西側が養老川から東京湾に分かれる分水嶺である。千葉支部が平成21年10月から踏査した出発点である。関東ふれあいの道に沿って進み、眼蔵寺の梵鐘を見学して追分から道の駅「ながら」へと戻り、茂原の「網元」で盛大な懇親会を開催して終了した。

朝早くから都内や埼玉から参加していただいた皆さん大変お疲れさまでした



こんにちは

静かだったキリマンジェロ

叶谷寿一

昨年9月より会友として日本山岳会千葉支部に参加することになりました^{かのうやじゅいち}叶谷寿一(1946年6月20日生)と申します。

入会のきっかけは青木さんの紹介です。

昭和44年9月に千葉に転勤になり、茂原に居住して現在、現役で働いておりますが、そろそろリタイヤするころかなと思っています。

年齢のせいでしょうか、気持ちだけは生涯現役なんです、最近は夜行日帰りをやめて、泊りの山旅に出かけております。

昨年、12月23日には支部行事の南房総の富山ハイキングに参加、楽しい里山歩きに良い経験をさせてもらいました。

幹事の皆様ご苦労様でした。有難うございました。



初めての海外登山は平成16年6月のキナバル、10月にはキリマンジェロに向かいました。

キナバルでは下りで一気に駆け降りましたが、膝が笑って困りました。この山旅では私一人だけでした。

キリマンジェロでは深夜に出発。満天の星空でしたが途中5000メートル付近で雪になりました。ガイドさんと相談し、頂上に向かうことにしましたが、残念なことに日の出は拝めませんでした。頂上では私とガイドさんだけ。ほかの登山者はどこへ行ってしまったのでしょうか。雪で引き返してしまったようで、実に静かな山旅でした。

今後は、会の山行に出来るだけ多く参加するよう努めていきます。宜しくお願いいたします。



千葉支部 10 周年に向けて。

現在の進捗状況

千葉支部は 2007 年 6 月 24 日、日本山岳会 28 番目の支部として発足。来年設立 10 周年という節目の年を迎えます。

昨年 5 月の通常支部総会で役員の顔ぶれも変わり、新体制後に招集した最初の役員会で「10 周年実行委員会」を立ち上げ、委員長に吉永英明顧問をお願いし、快諾を得ました。

役員会では

1. 10 周年記念海外登山
2. 記念パーティー
3. 記念グッズ
4. 出版物…など、今後の取り組みを話し合い、支部活性化のために読図講習会のようなものを開催して「すそ野」を広げ、会友・会員を増やすこと。そしてインターネットを通じて「千葉

の山」をもっと広く紹介し、さらに千葉の山の山名を染めた T シャツやバッグを作ったら...なども提案されました。グッズについては既にデザイン業者との打ち合わせも進んでいます。

また「千葉の山」については、インターネットに詳しい山行委員の山本哲夫さんを急きょ広報委員 HP 担当に兼務してもらい、山岳会本部のホームページに千葉支部のページを立ち上げてもらいました。ぜひご覧ください。

出版物は「房総半島分水嶺踏査報告書」のように、現在続行中の「郡界尾根踏査」を 10 周年記念誌としたら、との意見もあり、踏査の進み具合をみきわめながら検討しているところです。

(三木雄三)

10 周年記念海外登山について

今のところ候補に挙がっている山を紹介します。

- ・バチャ山 (2761m) カムチャッカ (ロシア) 5 日間
特別運航便を使うため 7 月下旬～8 月上旬 約 27 万円
- ・異山 (1915m) 韓国 冬以外の季節 約 15 万円
- ・南湖大山 (3742m) 台湾五岳の一つ 冬以外の季節 約 15 万円
- ・ハルラ山 (1935m) 韓国 濟州島 冬以外の季節 約 15 万円

ご意見がありましたら、なるべく早くご連絡ください。(山行委員海外担当・坂上光恵)



個人山行のご案内

行き先	日程	企画及び申込先	備考
燕岳～常念岳～蝶ヶ岳縦走	7.10 (日)～12 (火)	高橋琢子 支部便りに掲載	
空木岳	6.10 (金)～11 (土)	山本哲夫 支部便りに掲載	空木岳は前夜発 両コースとも車 1 台の場合 場合は 3 人まで、健脚者
東北朝日連峰朝日岳	7.15 (金)～17 (日)		

詳細は企画会員あてにお問い合わせください

お知らせ

支部長から会員各位にお願いがあります。 年会費の納入は5月末までに

会報「山」などご承知のように、高齢化による退会者・物故者の増加などによる会費収入の減少が深刻です。これに伴う経常赤字の解消策として、本部は平成28年度の予算において支部助成金について支部会員一人当たりの事業補助金を200円減額すると伝えてきました。

助成金は①支部運営交付金(共益事業目的・会員一人当たり1,000円)②事業補助金(公益事業目的・同1,500円)からなり、27年度までは『5月末の基準日までに会費を納入した会員数』に応じて一人当たり計2,500円が各支部に送金されてきましたが、新年度からは計2,300円に減額されそうです。

今回のお願いは、千葉支部の財政基盤を固めるためにも年会費の納入日を守ることで本部からの支部助成金を支部会員数に合わせて満額確保しようというものです。はっきり言いますと残念ながら、これまで納期の遅れにより会員数に見合った助成金が得られていないのが実情でした。支部の財政状況をご理解の上、宜しくお願いいたします。(三木雄三)

支部所属届、所属支部変更届の手続き変更について。

会員(様式※1または様式2 要署名捺印)⇒

支部(様式3 要支部長の署名捺印)⇒本部事務局となりました。千葉支部を辞められる場合も、口頭ではなく上記書類上の手続きが必要となります。不明な点は事務局までお尋ねください。

※様式(日本山岳会ホームページの会員ページ→書式集)

千葉支部事務局 高橋琢子



「2016年度千葉支部通常総会」のお知らせ

下記の通り、第9回通常総会を開催します。この総会において2015年度事業及び決算報告、2016年度事業及び収支予算計画などご審議いただきます。追って詳しいご案内を差し上げる事としておりますが、今からご予約をお願いします。また、総会終了後には懇親会を予定しております。

記

日時 2016年5月14日(土) 10:00~12:00

会場 京葉銀行文化プラザ 7階(椿) 千葉市中央区富士見町1-3-2 043-202-0800

総会審議 10:00~11:00

記念講演会 11:00~12:00

講師: 山口秀輝氏(美しい房総を写す会会長) 演題「房総の眺望と富士」

総会終了後 懇親会 13:00~15:00 美弥和本店(千葉パルコ隣 043-225-5377)

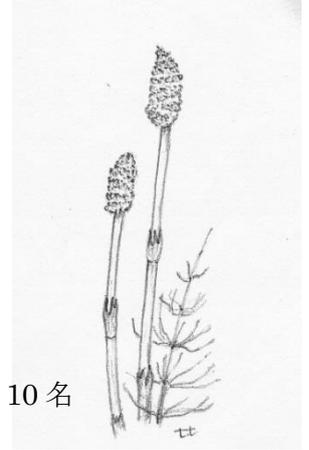
役員会の報告

12月報告 12月15日(火) 美弥和 (出席者：敬称略、五十音順)

出席者 鈴木、高橋、三木、山崎、山本、吉野 6名

◎協議事項

- ・「山の日」関係進捗状況
- ・平成28年度支部事業計画書、支部予算書作成について
- ・千葉支部での自然観察会開催の展望
- ・雪山指導者講習会参加費の助成について



1月報告 1月19日(火) 市川アイリンク

出席者 坂上、鈴木、高橋、三木、山口、山崎、山本、湯下、吉永、吉野 10名

◎協議事項

- ・山の日関連事業の進捗状況 県民登山、映画会、写真収集
- ・四支部合同懇談会 茨城県大洗町 千葉支部 17名参加
- ・10周年記念行事 式典、祝賀パーティー、県民登山、海外山行(13ページ参照)
- ・28年度総会日程 平成28年5月14日(土) 京葉銀行文化プラザ

2月報告 2月16日(火) 市川アイリンク

出席者 坂上、鈴木、高橋、三木、山本、湯下、6名

◎協議事項

- ・10周年記念事業について 記念グッズ等
- ・総会準備について 記念講演等
- ・活動の助成について 講習会参加、支部山行下見への一部助成等

編集後記

高橋正彦さんの連載「登山のABC」が本号をもって終了します。日本大学山岳部OBの登攀隊長としてヒマラヤ遠征の経験を持つ高橋さんが、登山とは何かという観点から登山の基礎を丁寧に書いてくれた。最近登山を始めた方ばかりでなく、経験のある方にとっても大いに役に立ったものと思います。改めてこの場をお借りしてお礼申し上げます。

次号から支部山行委員長の山口文嗣さんが県内の三角点についての連載を予定します。どうぞご期待ください。

また、支部ホームページに皆様の山行計画や最新情報をいち早く掲載したいと思っておりますので、積極的に情報をお寄せください。(送り先：山本) 広報委員会

山 行 の 予 定

(3月19日以降、支部行事等含)

行き先	日程	申込先	締切	備考
郡界尾根 第9回	3.19(土)	山口文嗣 支部便りに掲載	3.12(土)	
宝篋山	3.28(月)	湯下正子 支部便りに掲載	3.21(月)	(公益事業 晴香園)
郡界尾根 第10回	4.2(土)	山口文嗣 支部便りに掲載	3.26(土)	
花嫁街道 烏場山	4.16(土)	山本哲夫 支部便りに掲載	4.9(土)	新緑の花嫁街道 写真撮影
お花見山行 奥多摩倉戸山	4.23(土)	山口文嗣 支部便りに掲載	4.16(土)	ヤマザクラ咲く 奥多摩湖から登る
支部総会	5.14(土)			14ページ参照
南蔵王	5.28(土) ~29(日)	高橋琢子 支部便りに掲載	5.10(火)	塩澤シェフの手料理 を楽しむ
谷川岳一ノ倉沢 地形見学	6.5(日)	鈴木美代 支部便りに掲載	5.25(水)	小疇先生と 一ノ倉沢を中心とする 谷川岳東面の氷河地形 観察
巻機山	6.19(日) ~20(月)	坂上光恵 支部便りに掲載	5.31(火)	湯沢駅14時集合 先着10名

個人山行の企画を
13ページに掲載しま
した。ご覧ください。

広報委員会から

今年の8月11日から国民の祝日「山の日」が施行されます。広報委員会ではこの「山の日」を盛り上げていこうと、支部だよりに掲載する山の日デザインの検討をしています。6月号でお披露目を予定しています。